

(様式1)

## 令和5年度 学校評価結果報告書(高等学校用)

(1) 学校教育目標	<p>勤労を尊び、品性豊かで情操と創造性に富み、次世代を担う調和のとれた工業人の育成を目指す。</p> <p>(1) 品性の陶冶に努め、知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな生徒を育成する。</p> <p>(2) 個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養う。</p> <p>(3) 真理と正義を希求し、公共の精神を尊び、伝統を継承し、新しい文化の創造を目指す教育を推進する。</p>
(2) 現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>基本的な生活習慣が定着している生徒が多いが、その格差は大きい。ものづくり教育や各種資格取得等に積極的に取り組み、成果を上げている。</li> <li>基礎学力の定着や専門的な基礎技術・技能の定着と向上、生徒個々の進路実現等に向けて、組織的な指導体制の強化を進めている。</li> <li>進路活動の状況は良好であり、早期に進路目標を達成している生徒が多い。</li> </ul>
(3) 重点目標	<p>1 多様化する生徒一人一人の能力・適性に応じた指導と学習習慣の定着に努める。(学習指導の充実)</p> <p>2 生徒自らが自己実現を図っていくための力の育成を図り、健全な学校生活を確立する。(生徒指導の充実)</p> <p>3 進路目標の実現に向けて、生徒・教職員・保護者が共に早期から取り組む計画的・組織的・継続的な進路指導を推進する。(進路指導の計画的・組織的な指導の推進)</p> <p>4 教職員のものづくり技術の向上を推進するとともに、生徒の工業学習への意欲が向上するような指導に努める。(ものづくり教育の充実)</p>
(4) 結果の公表	学校関係者評価(保護者アンケート等)の結果とともに、ホームページに掲載して公表する。

学校整理番号	34
学校名	青森県立弘前工業高等学校
全日制の課程	校舎
自己評価実施日	令和6年1月22日(月):学校総括評価会議
学校関係者評価実施日	令和6年1月30日(火)

(9) -イ 学校関係者評価委員会の構成
<p>学校評議員4名 (保護者、地域住民、大学等の教育関係者、学校後援会役員等)</p> <p>学校関係者10名 (校長、教頭、事務長、関係分掌主任等)</p>

自 己 評 価				学校関係者評価		
番号	(5) 評価項目	(6) 具体的方策	(7) 具体的方策による目標の達成状況	(8) 目標の達成度	(9) -ア 学校関係者からの意見・要望・評価等	(10) 次年度への課題と改善策
1	学習指導の充実 (教務部・研修係) (図書・視聴覚部) (IT推進部)	<p>① 多様化する生徒の能力・適正に応じた指導と学習習慣の定着 (ア)目標の明確化と評価 (イ)基礎・基本に即した指導 (ウ)ICT活用によるわかる授業・力のつく授業 (エ)主体的・体験的学習</p> <p>② 円滑な学校運営のための分掌間の連絡調整に努めるとともに、業務の効率化を図る。</p>	<p>① ICTの活用や教材の精選、研究授業による授業改善を実施して多様化する生徒の能力・適正に対応している。評価と指導の一体化のために、新入生にシラバスを配付して到達目標を明確化するとともに、定期考査の事前・事後の講習会等により生徒の学習意欲を高めることができた。また、学びの基礎診断については分析会を実施している。</p> <p>② 校務支援システム(成績処理システム)の安定した稼働に向けて継続的に取り組み、業務の効化に取り組んだ。また、校内ポータルサイトによる連絡・確認事項等の配信と職員朝会実施日の見直し等により、職務の効率化を図ることができた。</p>	A	<p>日頃の学習成果を確認する機会として課題研究発表を参照した。生徒自らが学習・研究活動の様子を生き生きと発表・報告する様子を拝見し、参観する側も楽しい時間であった。生徒の自らが話す「コミュニケーションが大事」という言葉は学校評議員の心にとっても響いた。今後このような教育活動を続けて欲しい。</p> <p>入学者が減少する傾向は高等教育機関も同様であり、工業高校と同じ境遇にある中で、ともに生徒・学生数の増加に向けて取り組んでいきたい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>基礎的知識・技能の定着と活用力を育む指導及び学習評価と授業の改善について継続的に取り組む。</li> <li>主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業及び学習意欲を高めるための工夫を継続する。</li> <li>新学習指導要領に沿った授業と評価方法を確率させる。</li> <li>円滑な学校運営のための分掌間の連絡調整に努めるとともに、ICT機器及び校務支援システムを活用した業務の効率化を更に進化させる。</li> </ul>
2	生徒指導の充実 (生徒指導部) (特別活動部) (保健部) (渉外部)	<p>① 生徒自身が自己実現を図る力の育成 (ア)生き方・あり方を考える指導 (イ)基本的な生活習慣・規範意識 (ウ)いじめ防止 (エ)生徒理解・教育相談</p> <p>② 望ましい集団活動を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図る。</p>	<p>基本的な生活習慣と規範意識の定着に向けて、生徒指導部と各分掌、各教員が連携して指導した。生徒指導や教育相談の各事案については、教員間の情報共有と連携強化により丁寧な対応ができた。交通安全教室や自転車点検、街頭指導等を実施して意識の啓発を図り、事故防止や危険回避のための能力を高めた。</p> <p>② 生徒会活動や学校行事等の集団活動等を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図った。適切な助言指導により生徒の自主的・実践的活動を促し、各活動の活性化と生徒の発達を心がけた。</p>	B	<p>良い教育がされており、生徒が生き生きしており力強さを感じる。資料と説明、生徒の様子から、本当に先生方が一生懸命にやっていたに感じている。とくに人づくりに関する観点においては、高校生活の3年間で「社会に出て生き抜く力」が身につけられていると思う。台湾との交流活動も興味深い。</p> <p>スマートフォンの依存対策、自転車のヘルメット義務化について対応していただきたい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>豊かな学校生活を目指すうえで以下の事項について指導を継続していく。</li> <li>基本的な生活習慣を確立させる。</li> <li>集団生活に必要な規範意識やマナーの向上を図る。</li> <li>事故防止のための指導を徹底する。</li> <li>生徒会諸行事の活性化を目指す。</li> <li>ホームルーム活動の活性化を図る。</li> <li>部活動推進と強化に努める。</li> </ul>
3	進路指導の計画的・組織的な指導の推進 (進路指導部)	<p>進路目標の実現に向けて進路意識の早期啓発を図り、計画的・組織的・継続的な進路指導を行う。</p> <p>(ア)キャリア教育・勤労観・職業観 (イ)進路情報の収集・活用 (ウ)面談をきっかけとした早期指導 (エ)企業見学や外部人材によるガイダンス</p>	<p>希望進路の実現に向けて、早期の情報提供や進路希望調査、産官学連携による進路指導を継続し、意識の啓発を図った。地元企業理解を目的とした企業面談や企業見学、インターンシップ等を実施した。国公立大学進学希望者に対する講習会を実施した。</p> <p>2学年を対象に、4者面談(生徒・保護者・担任・科主任)を実施。学校公開日に保護者対象の進路説明会、学校行事日等での来校保護者に進路指導室を開放し個別説明会を実施した。2学期末には進路通信を発行した。</p>	B	<p>進路活動の中で、就職において大変多くの求人があるとともに進路決定が好調であることは大変素晴らしい。さらに、基礎・基本の指導や工業専門の指導、部活動をはじめとする特別活動において「文武両道」が成されていることがとても良い。</p> <p>保護者として、進学や就職をはじめとして3年生生徒の進路実現に向けて教員の皆様からご尽力をいただき、とても感謝している。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>職業観・勤労観等のキャリア教育の継続。</li> <li>生徒の希望進路の実現。</li> <li>高大接続改革における大学入試多様化へ対応できる環境の構築。</li> <li>保護者との協働・連携・信頼に努め、生徒の進路指導の充実を図る。</li> <li>各学年を対象として産官学連携による地元定着のための事業を継続する。</li> </ul>
4	ものづくり教育の充実 (工業科総括) (渉外部) (教務部・研修係)	<p>① 職員のものづくり技術の向上・生徒の意欲向上 (ア)校内研修 (イ)外部人材の活用 (ウ)コンテスト等の技術教育強化 (エ)課題研究・成果発表の充実</p> <p>② 産業界との連携し、工業技術・技能の定着や資格取得の推奨、専門的進路実現を目指す。</p>	<p>① 国際イノベーションコンテスト国内優勝、若年者ものづくり競技大会入賞、ものづくりコンテスト県大会での各部門の入賞など、実践的な活動を等して技術の向上と生徒の専門的資質の向上を図った。資格取得では、生徒が身に付ける力を明確にして系統的な指導を行い、実際の進路に結びつけている。</p> <p>② コロナ禍における連携事業の縮減によりインターンシップの一部学科の実施となったが、産業界や企業・地域人材を招いた講話、上級学校との連携等により専門教育の充実を努めた。</p>	B	<p>生徒の資格取得やコンテスト入賞等を報じる新聞記事がロープや廊下に掲示されている。弘前から地元工業高校校生の活躍の様子が県内外に発信・紹介されていることは、卒業生として大変喜ばしい。この学校の良さは、生徒の「ものづくりが楽しい」という言葉につながる。</p> <p>工業高校で新しい自分を発見したり技術を身につけたりして社会に出ていくことができる環境が存在していることが評価できる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>基礎技術・技能の定着と職業観の育成を目指す。</li> <li>安全作業の徹底を目指す。</li> <li>資格取得の奨励と、ものづくり教育の充実を目指す。</li> <li>地域・産業界等との連携強化を進める。</li> <li>指導者の技術・技能の向上、自己研鑽に努める。</li> <li>教職員の指導力向上に向けた校外研修を推進する。</li> </ul>

(11) 総括	<p>1-1 基礎学力と学習習慣の定着、評価と指導の一体化を目標にした授業改善を進めた。各教科・科目の学習到達目標や評価基準を明確にするため、年度初めにシラバスにより提示した。各教科の指導の下、生徒の学習意欲を高めた。(教務部)</p> <p>1-2 図書館は授業でも活用されている。生徒にとって利用しやすい環境であるように整備を進めている。各教科から要望により図書の購入に努めた。芸術鑑賞は弘前市民会館で中国雑技鑑賞を行い好評であった。視聴覚機器の点検も行い、各種行事等で利用した。(図書・視聴覚部)</p> <p>2-1 職員との連携や情報共有、共通理解により、いじめやトラブルなどの早期発見・問題解決にあたった。(生徒指導)</p> <p>2-2 生徒会活動や学校行事をはじめとする特別活動において、教師と生徒間の信頼関係づくりと生徒会活動の活性化に努め、一定の成功を取めた。次年度もさらに生徒会を中心として学校諸活動の活性化に努めたい。(特別活動部)</p> <p>2-3 心に悩みを抱えている生徒、保護者に対し、教育相談、スクールアドバイザー等を活用し問題解決に努めた。近年増加する不登校等については、関係分掌や関係機関との協力体制を密にして、生徒をサポートしたい。(保健部)</p> <p>2-4 後援会事業(教育環境の整備、部活動の活性化等)を中心に、教育活動の充実に努めた。(渉外部)</p> <p>3-1 卒業生全員の進路決定実現をめざし、目標達成を成し遂げた。職員間の情報共有や連携強化、生徒・保護者への情報発信(学年保護者集会、中学生体験入学、公開授業日等)を継続して実施した。(進路指導)</p> <p>3-2 後援会事業(教育環境の整備、部活動の活性化等)を中心に、教育活動の充実に努めた。(渉外部)</p> <p>3-3 進路通信を発行し、進路情報の発信・提供・共有に努めている。今後も継続して進路活動の「見える化」に取り組み、組織的な進路指導の充実を図る。</p> <p>4-1 ものづくり教育や資格取得をはじめとする工業教育に取り組んだ。ものづくり教育を通して勤労観を養い、品性豊かで情操と創造性に富んだ、調和のとれた工業人の育成並びに人格形成を進めた。(工業科総括)</p> <p>4-2 教職員の指導力向上を目指して研修を計画した。コロナの影響で完全な研修環境の回復には至っていないが、年2回の校内研修や一部の校外研修が復活し、教員の指導力向上のきっかけとなっている。今後も情報や要望を収集し、教員研修の充実を図る。(教務部・研修)</p>
---------	--

(様式1)

令和5年度 学校評価結果報告書(高等学校用)

(1) 学校教育目標	1 品性の陶冶に努め、知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな生徒を育成する。 2 個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養う。 3 真理と正義を希求し、公共の精神を尊び、伝統を継承し、新しい文化の創造を目指す教育を推進する。
(2) 現状と課題	在籍生徒は基礎学力は高められてきたものの、基本的な生活習慣はまだ身に付いていない。社会に出る前の最後の年において、基本的な生活習慣の定着を目指すとともに、生徒の能力と個性に応じた学習指導及びものづくり教育を推進し、進路は生徒の第一目標の達成に向けた指導に努める。
(3) 重点目標	1 多様化する生徒一人ひとりの能力・適性に応じた指導と学習習慣の定着に努める。(学習指導の充実)
	2 生徒自らが自己実現を図っていくための力の育成を図り、健全な学校生活を確立する。(生徒指導の充実)
	3 働くことの大切さや進路選択について、生徒・教職員・保護者が共に早期から取り組む計画的・組織的・継続的な進路指導の推進に努める。(進路指導の充実)
	4 工業教育を通して、生徒のものづくりへの意欲向上とともに、望ましい職業観・勤労観を醸成する指導に努める。(ものづくり教育の充実)
(4) 結果の公表	学校評価結果報告書を学校のホームページに掲載して発表する。

学校整理番号	51
学校名	青森県立弘前工業高等学校
定時制の課程	校舎
自己評価実施日	令和6年1月15日(月)
学校関係者評価実施日	令和6年1月30日(火)

(9) -イ 学校関係者評価委員会の構成
学校評議員4名 (保護者、地域住民、大学等の教育関係者、学校後援会役員)
学校関係者10名 (校長、教頭、事務長、関係分掌主任等)

自己評価			学校関係者評価		(10) 次年度への課題と改善策
番号	(5) 評価項目	(6) 具体的方策	(7) 具体的方策による目標の達成状況	(8) 目標の達成度	
1	学習指導の充実 (教務部) (図書・視聴覚)	①基礎的・基本的内容に即した教材の精選と、生徒の能力・適性に応じた指導に努める。 ②各教科において興味・関心を引き出す工夫をして、「分かる授業」、「力のつく授業」を目指す。 ③ものづくりと開課程事業を結び付けた作品作りに取り組む。	①生徒の学習能力や適性に応じて、各教科とも基本的な教材を精選していた。 ②「分かる・力がつく授業」を実施するため、ICTの活用や生徒に寄り添ったきめ細かな指導ができた。 ③開課程に向けて、ものづくり教育とあおもり創造学を絡めて、県産材を活用したコースター等の開課程記念品を製作した。	A	授業と開課程事業を関連させるなど、先生方の創意工夫した授業に感謝したい。  今年度で開課程のため、記載なし
2	生徒指導の充実 (生徒指導) (保健) (生徒会)	①基本的な生活習慣及び規範意識を涵養する。 ②全教員による生徒に対する共通理解と、チームで継続的な指導をする体制をより一層充実させる。 ③生徒の意見を取り入れ、生徒が達成感・充実感を感じられる生徒会行事を創意工夫して行う。	①ルールや時間を守ること、健康的な生活を過ごすことなど、生活習慣や規範意識の涵養に努めた。 ②毎日、教員間で生徒の情報交換を行って状況把握に努め、共通理解のもとで指導できた。 ③現状を踏まえて生徒会行事の内容を見直し、生徒の意見を取り入れ、「アウトドアクッキング」など意欲が湧く新たな行事を取り入れられた。	B	資料と説明、生徒の様子から、先生方が生徒のために一生懸命にやっていたと感じている。特に、高校生活の4年間で「社会に出て生き抜く力」が身に付けられていると思う。  "
3	進路指導の充実 (進路指導部) (渉外)	①授業やホームルーム活動を通して、社会人・職業人として自立できる能力・態度を育成する。 ②生徒の意見を取り入れた企業見学の実施と、外部講師の進路ガイダンス等により、生徒の進路に対する意識の向上を図る。 ③生徒との面談を通して進路を決定し、また計画的・組織的な進路指導に努める。	①進路指導主事と担任を中心に、ホームルーム活動や授業の中で、就職に臨む姿勢の涵養に努めた。 ②生徒の希望する企業と、生徒の特性にあった企業を見学させた。また外部講師による進路ガイダンスを実施し、刺激と緊張感がある進路指導を行った。 ③組織的な進路指導を計画したが、生徒の意欲が高められず、目標とした進路指導ができなかった。	B	就職において多くの求人があると知るとともに、無事に進路が決定がされ、生徒の進路実現に向けた教員の取り組みに大変感謝している。  "
4	ものづくり教育の充実 (工業科課題研究)	①生徒の意見を尊重して製作作品を決めるなど、生徒が意欲的に取り組める内容を設定して、課題研究を充実させる。 ②ものづくり教育を通して、専門技術の修得及び望ましい職業観・勤労観を醸成する。 ③外部人材を活用し、工業技術教育の充実を図る。	①生徒が希望した作品づくりに取り組んだため、ものづくりへの意欲は高く、充実した課題研究となった。 ②ものづくりを通して、専門的な技術の修得もさることながら、使用者を考えたものづくりの大切さを実感してくれた。 ③本校定時制出身かつ教員であった方を講師として招いて県産材を利用したものづくりを行い、製作技術の奥深さを理解させられた。	A	本校の良さは、生徒の「ものづくりが楽しい」という言葉につさる。工業高校で新しい自分を発見したり技術を身につけたりして社会に出ていくことができる環境が存在していることは評価できる。  "

(11) 総括	1 「分かる・力がつく授業」を目指すために生徒の能力や適性把握に努め、生徒が興味・関心が高められる授業を各教科とも展開できた。 2 基本的な生活習慣の定着や規範意識の涵養は難しかったが、毎日、教員間で情報交換をし、生徒への指導は共通理解をもってできた。 3 生徒会行事等は生徒の状況や家庭環境を踏まえて計画し、どの行事も工夫や改善を前提に内容の充実化を図れた。 4 生徒の希望進路実現のために、生徒の意見を取り入れるなど自らの意欲を高められる工夫を凝らしたが、計画通りの進路指導はできなかった。 5 進路ガイダンスに外部講師を招くなど、学校外からの刺激導入に努め、常に時代の変化を意識した進路指導・キャリア教育を実践できた。 6 課題研究は生徒の興味・関心が高いものづくりを取り入れたため、生徒の主眼的な活動を引き出した。また、あおもり創造学と関連させたことで、課題研究の充実化が図れた。 7 開課程事業として、開課程式の実施、記念誌の作成、記念プレートの制作など、全教職員の協力のもと各種事業が無事に実施できた。
---------	---